

都市再生整備計画 事後評価シート

倉吉駅周辺地区

平成25年3月

鳥取県 倉吉市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鳥取県		市町村名		倉吉市		地区名		倉吉駅周辺地区			面積		136.9ha
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期		平成24年度		交付対象事業費		1,620百万円	国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業		道路(上井羽合線沿道地区 区画街路)、高質空間形成施設(カラー舗装、照明、シェルター、案内板・掲示板、植栽、モニュメント、トイレ、エスカレーター)、高次都市施設(地域交流センター)									
			提案事業		地域創造支援事業(土地区画整理事業造成工事)									
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			基幹事業		なし									
	新たに追加した事業		提案事業		チャレンジショップ		指定管理者、市の内部協議により観光サポート業務の取り扱いを新規に考え、交流機能を充実させるため廃止				影響なし			
			基幹事業		なし									
交付期間の変更		当初		平成19年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		住民要望及び市内部検討により、計画期間の延長を行った。指標2～4は目標を達成しているため、影響なし。						
		変更		平成19年度～24年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	駅乗降客数	人/日	4,784	H17	5,000	H23	4,388	4,328	△	あり なし	●	地域交流センターや観光物産館の整備により、集客は見込まれ、また、駅に近い市街地からの利用者が増加した。しかし、人口減少、車利用者の増加、長引く不況による観光客の減少など、社会情勢の変化を背景に、その効果が十分に発揮できなかった。但し、従来の減少傾向に比べると、減少が緩やかになった。	—
	指標2	交通環境に対する満足度	%	17.2	H18	23	H23	59.2	59.9	○	あり なし		土地区画整理事業による面的整備と周辺の道路整備、及び駅橋上化や自由通路、エスカレーター等が完成しており、全体的な満足度が目標値を超えていることから高評価を得ている。	
	指標3	市街地環境に対する満足度	%	18.1	H18	23	H23	49.7	53.7	○	あり なし		土地区画整理事業による面的整備と、地域交流センターや観光物産館等が完成しており、全体的な満足度が目標値を超えていることから、高評価を得ている。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ
				基準年度		目標年度		モニタリング		評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標1	駅南北間の歩行時間	分	9	H17			—		2			倉吉駅交通結節点改善事業による、橋上化駅、自由通路やエレベータ等の整備により、駅へのアクセス利便性が向上とともに、駅南北間の歩行時間が短縮した。	
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	・本計画による事業実施を契機として、平成20年4月1日に市民主導でNPOが設立され、倉吉駅の指定管理者として施設の管理運営に継続的に携わっている。(名称:NPOふるさと遊誘駅舎館、実施時期:平成22年～26年度) ・モニタリング及び事後評価時のアンケート調査結果より、回答率が約50%と多く、自由意見についても記入率も約50%と比較的高いことから、駅周辺地区に対する住民の期待や関心が高い状況にある。													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング		倉吉市統計書等によるモニタリングを実施 アンケート調査によるモニタリングを実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた						モニタリング同様に毎年度の本市統計書により確認する。			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●		モニタリング同様にアンケート調査により確認する。			
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
住民参加プロセス		地元NPOの活用 まちづくり協議会の設置検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		引き続き、良好な管理運営に努める。				
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						当プロセスを良い経験として、他地区や市全体に波及させていく。				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築		地元NPOの活用		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		引き続き、NPOや新たな指定管理者等と連携しながら、まちづくりを進める。				
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

倉吉駅周辺地区(鳥取県倉吉市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:“賑わいと交流”型の花温泉郷のエントランスの実現 目標1:倉吉駅を中心とした交通結節機能の強化及び都市機能の更新 目標2:バリアフリーで人にやさしく、景観に配慮した交流空間となる施設整備の推進とまちなみ環境づくり	駅乗降客数	単位:人/年	4,784	H17	5,000	H23	4,328	H23
	交通環境に対する満足度	単位:%	17.2	H18	23.0	H23	59.9	H24
	市街地環境に対する満足度	単位:%	18.1	H18	23.0	H23	53.7	H24
	観光施設の利用者数	単位:人/年	7,300	H18	7,500	H23	84,556	H23.10



まちの課題の変化	・自由通路による南北市街地への歩行によるアクセス性が向上している。 ・駅北口の新規整備や南口の整備により、バスや鉄道など公共交通への乗降環境が向上している。 ・駅北口の市街地整備が完成しており、駅に近く、緑豊かな良好な街並みが形成された市街地環境を創出している。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・地元要望の地域交流センターや観光物産館、駅前広場など、交流の場が整備され、賑わいが創出されつつある。 ・公衆トイレ、エスカレーター、エレベーターの設置により、バリアフリー化された駅舎が整備され、駅利用者の利便性が向上している。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・指定管理者制度やNPOなどの民間活力を導入し、市民や来訪者等が立ち寄りやすい場の提供を進める。 ・活用が期待されている、駅周辺の将来ビジョンを示し、利害関係者とともに今後の活用について検討する。 ・近隣自治体を含めた観光圏の取り組みを進めており、JRとも連携しながら鉄道利用及び魅力の向上に繋がる取り組みが必要である。 ・環境問題への啓発も視野に入れた公共交通機関の利用促進に向けた取り組みを実施する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無	P.1
添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)	P.2、P3
添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	P.4
添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測	P.5
添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	P.5

(2) 実施過程の評価

添付様式3－① モニタリングの実施状況	P.6
添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況	P.6
添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況	P.6

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制	P.7
添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理	P.7
添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理	P.8

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制	P.9
添付様式5－② まちの課題の変化	P.9
添付様式5－③ 今後のまちづくり方策	P.10
添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見	P.10
添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画	P.11
添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方	P.12
添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)	P.12

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表	P.13
-----------------	------

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議	P.14
----------------	------

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取	
------------------	--

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—		
B. 目標を定量化する指標	●		目標値なし	「観光施設の利用者数」及び「7,500人/年」を追加	・駅とバス停の中間に位置する観光案内施設を駅舎内の市役所出張所と統合し、移設することで、利便性の向上を図り、利用者数のさらなる増加が期待できるため。 ・目標値については、当時の利用者数7300人/年を上回る数値を設定。
C. 目標値		●	—		
D. その他(計画期間の変更)	●		平成19年度～平成21年度	平成19年度～平成24年度	・住民要望及び市内部検討により、詳細設計を見直し、工程の見直しが必要となり、変更。

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路	上井羽合線沿道地区(地方道(区画道路))	81.0	L=265m	36.8	L=679.8m	実施設計により計画内容を見直したため事業費減	指標2(交通環境満足度)に好影響 アンケートより満足度が59.9%と目標値23%を超過	●	
道路	上井羽合線沿道地区(街路)	—	なし	33.8	L=327.5m	実施設計により計画内容を見直したため追加	同上	●	
地域生活基盤施設	駅南広場	—	なし	14.4	電光掲示板1基	実施設計により計画内容を見直したため追加	同上	●	
高質空間形成施設	駅南広場(緑化施設等(カラー舗装等))	144.0	2600㎡	55.1	インターロッキング舗装: 940㎡	実施設計により計画内容を見直したため事業費減	同上	●	
高質空間形成施設	駅南広場(緑化施設等(シェルター、案内板・掲示板等))			123.7	シェルター: 125㎡ 案内板: 1基	実施設計により計画内容を見直したため追加	同上	●	
高質空間形成施設	駅南広場(緑化施設等(植栽))			0.1	120㎡	実施設計により計画内容を見直したため追加	同上	●	
高質空間形成施設	駅北広場(緑化施設等(モニュメント))	5.0	1基	3.1	1基	実施設計により計画内容を見直したため事業費減	指標3(市街地環境満足度)に好影響 アンケートより満足度が53.7%と目標値23%を超過	●	
高質空間形成施設	自由通路内(障害者誘導施設: 公衆トイレ)	24.0	2箇所	22.0	1箇所	実施設計により計画内容を見直したため事業費増	指標2(交通環境満足度)に好影響 アンケートより満足度が59.9%と目標値23%を超過	●	
高質空間形成施設	自由通路北側(歩行支援施設: エスカレーター)	32.0	1台	57.2	1台	実施設計により計画内容を見直したため事業費増	同上	●	
高次都市施設	JR倉吉駅東隣(地域交流センター)	780.0	—	902.4	717㎡	実施設計により計画内容を見直したため事業費増	指標3(市街地環境満足度)と指標4(観光案内施設利用者数)に好影響 アンケートより満足度が53.7%と目標値23%を超過 H21観光案内施設利用者7,200人(H18より1.4%減少) H24 " 84,556人(大幅に増加)	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	土地区画整理事業造成工事	4,000.0	1.24ha	281.2	1.24ha	なし	—	●	
	観光物産館	—	なし	51.4	87㎡	実施設計により計画内容を見直したため追加	影響なし	●	
	チャレンジショップ	19.0	30㎡	—	—	指定管理者、市の内部協議により観光サポート業務の取り扱いを新規に考え、交流機能を充実させるため廃止	影響なし	—	—
事業活用調査	事業効果分析調査	—	なし	1.8	モニタリング調査	事業実施状況を把握するため追加	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費(百万円)		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
倉吉駅交通結節点改善事業		倉吉駅南北線(自由通路)	900	1,038	H18～H20年度	H18～H22年度	H22年度完成	
駅北広場		倉吉駅北口	200	147	H18～H20年度	H18～H22年度	H22年度完成	
道路		上井羽合線	1,400	2,550	H13～H19年度	H13～H19年度	H19年度完成	
道路		(都)駅北通り線(Ⅰ期)	120	120	H20～H22年度	H23～H27年度	事業中(H27年度完成予定)	
道路		(都)駅北通り線(Ⅱ期)	300	100	H18～H21年度	未定	検討中	
道路		(都)駅北通り線(Ⅲ期)	540	600	H21～H23年度	未定	検討中	
道路		(都)八屋福庭線	240	225	H20～H22年度	H23～H27年度	事業中(H27年度完成予定)	
道路		バリアフリーの改修等	10	10	H19年度	H19年度	H19年度完成	
道路		(都)八屋福庭線(Ⅰ期)予定	検討中	検討中	未定	未定	検討中	
道路		(都)八屋福庭線(Ⅱ期)予定	検討中	検討中	未定	未定	検討中	
道路		土地区画整理事業地内	—	—	H13～H22年度	H13～H23年度	H23年度完成	
ATMコーナー		地域交流センター内	—	9.7	—	H23年度	H23年度完成	

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
					基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	駅乗降客数	人/日	倉吉駅の乗降客数 (各年JR西日本米子支社、旅客 実績より)	5,970	H8	4,784	H17	5,000	H23	モニタリング	H21	4,388	モニタリング	×		●
										事後評価	確定 見込み	4,328	事後評価	△		
指標2	交通環境に対する満足度	%	アンケート調査による交通環境 の満足度(満足、ほぼ満足の合 計) (H24.9実施、回答283/回収546)	—	—	17.2	H18	23.0	H23	モニタリング	H22	59.2	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み	59.9	事後評価	○		
指標3	市街地環境に対する満足 度	%	アンケート調査による地域の満 足度(満足、ほぼ満足の合計) (H24.9実施、回答314/回収546)	—	—	18.1	H18	23.0	H23	モニタリング	H22	49.7	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み	53.7	事後評価	○		
指標4	観光施設の利用者数	人/年	観光案内施設の利用者数 (倉吉市観光交流課、観光案内 利用調査H23.10～H24.9)	—	—	7,300	H18	7,500	H23	モニタリング	H21	7,200	モニタリング	×		
										事後評価	確定 見込み	84,556	事後評価	○		
指標5	—									モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	△:全国的な人口減少が進むうに、景気の低迷による観光客の減少、車利用による移動手段の変化に伴い、乗降客数の増加には結びつかなかった。しかし、エスカレーターや自由通路による駅南北市街地の連携整備など、利用者にとって快適な駅舎が整備され、従来の減少率も緩やかになっている。	—
指標2	○:交通環境が大きく改善されたことにより、アンケート結果による交通環境に対する市民の満足度が目標値を上回っており、目標は達成したと判断した。	—
指標3	○:市街地環境が大きく改善されたことにより、アンケート結果による市街地環境に対する市民の満足度が目標値を上回っており、目標は達成したと判断した。	—
指標4	○:平成23年11月にオープンした観光案内施設は、ホームページや市報等の広報活動、駅舎及び駅周辺でのイベント活動の実施などにより、利用者数が大幅に増加し、目標を達成したと判断した。	—
指標5	—	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	駅南北間の歩行時間	分	駅南北間の歩行時間について、 事業前後の時間を把握する。	9	H8	9	H17	モニタリング	—	—	都市再生整備計画の指標2の 交通環境に対する満足度の向 上を説明し、南北の分断を解消 するのにふさわしい指標であ る。	指標2を補完し、エスカレー ター、エレベーター、自由通路 の設置により、鉄道で分断さ れている南北の連携に対し、 歩行者の時間短縮効果を示 す。
								事後評価	確定 見込み	● 2		
その他の 数値指標2	—							モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3	—							モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・本計画による事業実施を契機として、平成20年4月1日に市民主導でNPOが設立され、倉吉駅の指定管理者として施設の管理運営に継続的に携わっている。(名称:NPOふるさと遊誘駅舎館、実施時期:平成22年～26年度)
・モニタリング及び事後評価時のアンケート調査結果より、回答率が約50%と多く、自由意見についても記入率も約50%と比較的高いことから、駅周辺地区に対する住民の期待や関心が高い状況にある。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
都市再生整備計画に記載なし 倉吉市統計書等によるモニタリングを実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】当初計画時、モニタリング時(H23.3) 【実施結果】指標1(駅乗降客数)、指標4(観光案内施設の利用者数)について交付期間中の変化を確認することができた。	モニタリング同様に毎年度の本市統計書により確認する。
都市再生整備計画に記載なし アンケート調査によるモニタリングを実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】当初計画時、モニタリング時(H22.11) 【実施結果】指標2(交通環境に対する満足度)、指標3(市街地環境に対する満足度)について交付期間中の変化を確認することができた。	モニタリング同様にアンケート調査により確認する。

添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地元NPOの活用	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成22～平成24年度 【実施結果】既に倉吉駅の指定管理者として施設の管理運営に継続的に携わっている。(NPOふるさと遊誘駅舎館/H20.4.1設立)	引き続き、良好な管理運営に努める。
まちづくり協議会の設置検討	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成19年度 【実施結果】まちづくり協議会の意見集約を行い、会議の意見を反映して都市再生整備計画(当初計画)を作成している。	当プロセスを良い経験として、他地区や市全体に波及させていく。

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
地元NPOの活用	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 指定管理者制度の活用	組織名:NPOふるさと遊誘駅舎館 概要:駅及び周辺施設の管理運営	引き続き、NPOや新たな指定管理者等と連携しながら、まちづくりを進める。
—	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	—	—	—

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
—	—	—	—

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		指標4		その他の数値指標1	
指 標 名		交通環境に対する満足度		市街地環境に対する満足度		観光施設の利用者数		駅南北間の歩行時間	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(上井羽合線沿道土地区画整理事業地内区画道路)	◎	土地区画整理事業による面的整備と周辺の道路整備、及び駅橋上化や自由通路、エスカレーター等が完成しており、全体的な満足度が目標値を超えていることから高評価を得ている。	—	土地区画整理事業による面的整備と、地域交流センターや観光物産館等が完成しており、全体的な満足度が目標値を超えていることから、高評価を得ている。	○	駅から遠方にあった観光案内施設を地域交流センター内に移設したことから、施設利用者の利便性が高まり、利用者数が目標値を超えている。	—	倉吉駅交通結節点改善事業による、橋上化駅、自由通路やエレベータ等の整備により、駅へのアクセス利便性が向上とともに、駅南北間の歩行時間が短縮した。
	高質空間形成事業(駅南広場改修)	○		◎		○		○	
	高次都市施設(地域交流センター)	—		◎		◎		—	
	高質空間形成事業(駅北広場モニュメント)	—		○		—		—	
	高質空間形成事業(公衆トイレ)	—		◎		—		—	
	高質空間形成事業(エスカレーター)	◎		—		—		○	
	地域生活基盤施設(電光掲示板)	—		◎		—		—	
提案事業	地域創造支援事業(上井羽合線沿道土地区画整理事業地内造成工事)	—		◎		—		—	
	地域創造支援事業(観光物産館)	—		◎		◎		—	
関連事業	倉吉駅交通結節点改善事業	◎		○		○		◎	
	駅北広場	—		◎		—		○	
	幹線道路	◎		○		○		○	
	ATMコーナー	—		◎		○		—	

※指標改善への貢献度

◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後関係機関と協議しながら、公共交通へのアクセス性の向上を図る。	土地区画整理事業以外の市街地環境整備を推進する。	観光情報の提供を促進し誘客に努める。	駅北における商業系土地利用の促進を図り、賑わいの創出を図る。
-------	----------------------------------	--------------------------	--------------------	--------------------------------

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指 標 名		駅乗降客数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(上井羽合線沿道土地区画整理事業地内区画道路)	－	地域交流センターや観光物産館の整備により、集客は見込まれ、また、駅に近い市街地からの利用者が増加した。しかし、人口減少、車利用者の増加、長引く不況による観光客の減少など、社会情勢の変化を背景に、その効果が十分に発揮できなかった。但し、従来の減少傾向に比べると、減少が緩やかになった。	Ⅲ									
	高質空間形成事業(駅南広場改修)	×											
	高次都市施設(地域交流センター)	△											
	高質空間形成事業(駅北広場モニュメント)	－											
	高質空間形成事業(公衆トイレ)	－											
	高質空間形成事業(エスカレーター)	－											
	地域生活基盤施設(電光掲示板)	－											
提案事業	地域創造支援事業(上井羽合線沿道土地区画整理事業地内造成工事)	△											
	地域創造支援事業(観光物産館)	△											
関連事業	倉吉駅交通結節点改善事業	△											
	駅北広場	△											
	幹線道路	△											
	ATMコーナー	－											

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	NPOなどの民間活力を導入し、環境問題への啓発も視野に入れながら、公共交通機関の利用促進に向けた取り組み(イベント、広報活動、パークアンドライドの推進等)を進め、鉄道の利用促進を図る。				
------------------	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
—	—	—	—

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交通結節機能強化と都市機能更新(南北市街地の連携、公共交通の乗降環境の向上、魅力的で住みやすい住宅市街地への更新など)	・自由通路による南北市街地への歩行によるアクセス性が向上している。 ・駅北口の新規整備や南口の整備により、バスや鉄道など公共交通への乗降環境が向上している。 ・駅北の市街地整備が完成しており、駅に近く、緑豊かな良好な街並みが形成された市街地環境を創出している。	・JR倉吉駅の乗降客数の減少が見られることから、鉄道利用及び魅力の向上施策を講じていくことが課題である。	・南北市街地内に空地や未利用地が介在しているため、その活用が今後の課題である。
中心市街地活性化と交流・もてなし空間の形成(交流の場づくり、景観整備、駅や道路、公共公益施設等のバリアフリー化など)	・地元要望の地域交流センターや観光物産館、駅前広場など、交流の場が整備され、賑わいが創出されつつある。 ・公衆トイレ、エスカレーター、エレベーターの設置により、バリアフリー化された駅舎が整備され、駅利用者の利便性が向上している。	・地理的特性を生かしたコンベンション機能の向上を図り、中部圏域及び地域の拠点施設として、さらなる利用促進が課題である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	施設を活用し、観光客の集客や市街地における賑わい、地域住民の交流を持続させる。	・指定管理者制度やNPOなどの民間活力を導入し、市民や来訪者等が立ち寄りやすい場の提供を進める。	・ホームページや観光案内板、鉄道車内テロップやアナウンス等を活用した市内外への情報発信 ・地場産品販売の物産展等やその他イベントの開催支援検討調整 ・庁内各課や観光協会等との協働による活用できる資源の掘り起こし検討調整

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	空地や未利用地の有効利用	・活用が期待されている駅周辺の将来ビジョンを示し、利害関係者とともに今後の活用について検討する。	・小規模スペースの貸し出しや店舗の誘致、緑地、駐車場整備等、整備予定の施設や事業についての情報提供 ・JA及び関係部局と連携し、朝市や農業祭など定期的なイベントの開催及び活用支援検討調整
	鉄道利用及び魅力の向上	・近隣自治体を含めた観光圏の取り組みを進めており、JRとも連携しながら鉄道利用及び魅力の向上に繋がる取り組みが必要である。 ・環境問題への啓発も視野に入れた公共交通機関の利用促進に向けた取り組みを実施する。	・関係部局で鉄道やバス会社と協力し、切符をイベント券として再利用する事業検討調整 ・広場を利用したイベントの開催、広報活動支援等

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			単位	年度									予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	駅乗降客数	人／日	4,784	H17	5,000	H23	確定	●	4,328	△	あり	●	→	—	乗降客数を指標とすることは、地方都市の実情に合わないため、指標2やその他の数値指標1で補完することとしたい。	
							見込み				なし					
指標2	交通環境に対する満足度	%	17.2	H18	23.0	H23	確定	●	59.9	○	あり		→			
							見込み				なし					
指標3	市街地環境に対する満足度	%	18.1	H18	23.0	H23	確定	●	53.7	○	あり		→			
							見込み				なし					
指標4	観光施設の利用者数	人／年	7,300	H18	7,500	H23	確定	●	84,556	○	あり		→			
							見込み				なし					
指標5							確定				あり		→			
							見込み				なし					

その他の数値指標1	駅南北間の歩行時間	分	9	H17		確定	●	2			→			
その他の数値指標2						確定					→			
						見込み								
その他の数値指標3						確定					→			
						見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・一部指標でモニタリングを実施したことにより、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・都市再生整備計画の作成時には、事業との整合を十分に検討し、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある
	うまくいかなかった点	・駅乗降客数が増加することを目標としたが、それらの客数の増減は、経済状況など様々な要因の影響を受けるため目標値の達成が困難となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・観光案内施設の利用者数やアンケートによる満足度を指標に設定することができたため、目標との関連性を明確にすることができた。	・利用促進にはソフト面の事業が必要である。
	うまくいかなかった点	・施設の整備だけでは駅乗降客数の増加は難しく、利用を促進させる事業が必要であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民発意による新たなNPOが誕生し、駅舎及び周辺施設の管理運営に発展している。	—
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標は統計書や鉄道会社により毎年度、数値が整理されているものであるため、評価を容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・できるだけ統計情報を活用したデータ取得を行う必要がある。
	うまくいかなかった点	・アンケートによる満足度調査は、定量的なデータが取得でき、満足の向上を確認することができた。しかし、コストの面から全世帯調査を行っていないことや未利用者のバイアスが一部存在する。	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後、都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金)の活用を予定している地区はない
- ・事後評価を予定している地区はない

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	平成24年12月1日(土) ～12月21日(金)	同左	・郵便 ・電話 ・FAX ・電子メール	景観まちづくり課
広報掲載・回覧・個別配布	庁舎掲示板、ケーブルテレビ市情報欄に市のホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲示、掲載	平成24年12月1日(土) ～12月21日(金)	同左		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	景観まちづくり課窓口、各地区公民館において原案閲覧	平成24年12月1日(土) ～12月21日(金)	同左		

住民の意見	意見はありませんでした。
-------	--------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	鳥取短期大学 教授 倉恒俊一	第1回 平成24年11月9日 第2回 平成25年2月8日	景観まちづくり課	倉吉市都市再生整備計画(倉吉駅周辺地区)事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	・鳥取県建築士会 中部支部 坂本 操 ・特定非営利活動法人ふるさと遊誘駅舎館 代表 中本博泰 ・倉吉市民 田栗静男				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。 (方法書による審議)
	成果の評価	・指標2～4は妥当であると認められた。指標1については、地方都市の実情から指標から外すべきであるとの意見があった。 (添付様式1、2による審議)
	実施過程の評価	・実施過程の評価については、特に意見等はなかった。 (添付様式3による審議)
	効果発現要因の整理	・駅舎の整備と周辺整備にタイミングをあわせて、周辺の関連する事業が実施できたことは、交付金をうまく利用できたという意見があった。 (添付様式4による審議)
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民にわかりやすく公表されたことが確認された。 (添付様式7による審議)
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・パブリックコメント及び委員会を進めたことで事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・土地の有効活用について、開発事業者やNPO等を導入した仕組みづくりの検討を行う必要があるとの意見があった。 (添付様式5による審議)
	フォローアップ	・指標1の乗降客数は、全国的にみても減少傾向にあり、達成が困難である。このため、指標4と5で代替できるとの意見があった。 (添付様式5-④による審議)
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。 (添付様式5、6による審議)
その他		・特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。